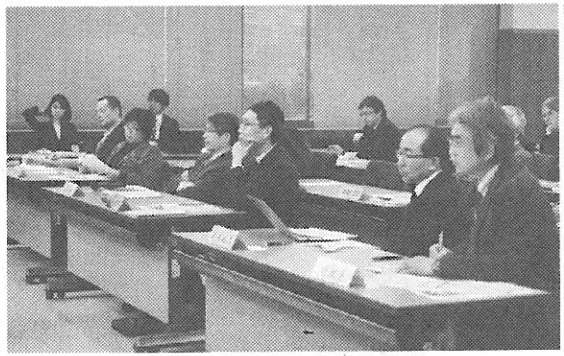
＝岡山大学＝
有馬東大総長補佐ら講演会

岡山大学は1月22日、東京大学の有馬孝尚総長特任補佐（IR担当）と青木志帆IRデータ担当課長を招き、IR／IE講演会を開催、槇野博史学長をはじめ、役員や部局長、教職員ら約80人が聴講した。


聴講する槇野学長ら執行部

講演する有馬東大総長特任補佐

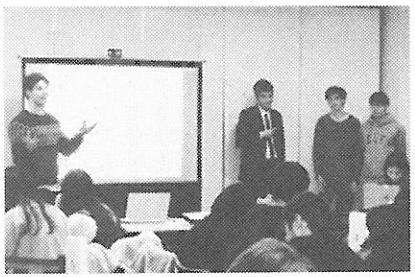
有馬総長特任補佐は「東京大学におけるIR活動～現状等将来像～」と題し、経済社会における構造変化やSDGs（Sustainable Development Goals）への取り組みなどを紹介。さらに、国立大学法人における経営力の強化、好循環の確立による自律的な大学経営、予算配分の透明化と組織体制、教員・研究者の戦略的配置、東京大学IRデータ室の役割と体制について、具体的な数値データを交えながら講演した。青木IRデータ担当課長は「大学の特性を踏まえたIRデータ活動とは？―東京大学が統合報告書を目指す理由―」と題して講演。教学情報、研究情報の公表のみでなく、ステークホルダーに対してさらなる支援の拡大を訴えるため、非財務情報と財務情報に加え、経営理念・ビジョンを統合させた「統合報告書」を作成する必要性があると強調。統合報告書作成に向けたIRデータ室が果たす役割について、東京大学の実情などを交えながら講演した。講演後の質疑応答では、データ抽出の要望やKPI設定における全学と部局数値の整合性、卒業生へのデータ収集方法、ビジョンを踏まえたKPI（短期・長期的視点）の設定に関する質問があり、活発な意見交換が行われた。

また、IR／IE講演会前には、「財務（決算等）に関する勉強会」と「IRに関する担当レベル意見交換会」も実施した。

大学経営を取り巻く環境が厳しさを増す中で、大学内の財務や教育研究活動に関する諸情報を、効果的に集約・管理・分析し、大学の意思決定や組織戦略に活用するためのIR（Institutional Research：IR）を構築・整備することが、各大学にとって重要な課題となってきている。今回の講演を踏まえ、IR体制の充実・発展に活用していくとしている。

＝広島大学＝
留学生支援「ホームシック対策」

広島大学短期交換留学プログラム（HUSA）の留学生が1月24日、東広島キャンパスの学生プラザにおいて「グローカル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働～留学生の自助支援：ホームシック対策～」実践研究グループプロジェクト第1回中間発表会を開催した。


発表するHUSAプログラム留学生

国際セミナーで留学生にフィードバックする学生

北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの13カ国33大学からの交換留学生39人で構成する7グループが、HUSA担当の恒松直美国際センター准教授による英語と日本語の司会・進行のもと、実践プロジェクトの進行状況について発表を行った。現在、留学生の自助支援プロジェクトの一環として、ホームシックを軽減するため、地域との協働プロジェクトに昨年10月より取り組んでいる。

発表会は、地域公開として開催され、地域企業の方々や学内の教員・大学院生・留学生から貴重なフィードバックがあった。大学と地域の協働について多くの示唆を得ることができた。

現在、「日本到着後30日サバイバルガイド」「留学準備ガイド」「東広島紹介ビデオ」「広島大学サークル&クラブ」「世界の料理を紹介する西条インタラクティブマップ」など、留学生は試行錯誤してプロジェクトを進めている。

講演する片

東京大学や川崎市産業振興財団における具体的な取り

遂行する上での知識を深める場として活用している。

役員